

皆様、腹部超音波検査をご存じでしょうか？経験された方はこんな事を思われるかと思います。

- ・ベタベタするゼリーを塗る検査！
- ・息を吸って止めて、と言われる苦しい検査！
- ・あっち向いて、こっち向いて、起きてなどゴロゴロさせられる検査！
- ・お腹をグリグリされる検査！

今回は腹部超音波検査でなぜこんなことをしているの？ということをお話させていただこうと思います。

その前に、腹部超音波検査について説明します。腹部超音波検査では脾臓、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓などお腹の臓器を中心に検査します。扇形のプローブというものを直接肌にあて、プローブから人間の耳には聞こえない高い周波数の音を出し、その音が体内を通過する際に脂肪、筋肉、臓器などにぶつかって跳ね返ってきたものを画像化して病気の有無を調べます。その際、超音波を通しやすく、また滑りをよくするために超音波用のゼリーを使用します。超音波は特性上、体に負担をかけずに何度でも繰り返し検査可能ですが、苦手な物が存在します。それは空気と骨です。苦手とはどういうことかと言いますと、空気や骨の奥は見えにくくなってしまうということです。この事がこれからのお話に重要になってきます。

腹部超音波検査の前は食事をとらずに来て下さいとお願いしています。その理由は、消化している間は胆嚢が収縮してしまい観察しづらくなってしまうからです。そしてもう一つ、食事の摂取によって空気が消化管内に入ることによって全体が見にくくなってしまうため、という理由もあるのです。

次に、検査中に色々な協力をお願いしているのはなぜかを簡単に説明します。

Q 『息を吸って、止めて下さい！は何のため？』

空気が苦手なものにも関わらず、息を吸わなきゃいけないなんて矛盾！と思われましたか？息を吸ってもらうのにはもう一つの苦手なもの…骨が関係してきます。腹部超音波で観察する臓器の多くは肋骨に囲まれています。骨の上からでは超音波は通らない…そこで、大きく息を吸って肺を膨らませ、臓器を肋骨より下に下げることで見える部分が広がるというわけです。また呼吸をしていると臓器も合わせて動いてしまいます。なので、息を止めて頂くことで、臓器が止まり観察しやすくなります。

Q 『あっち向いて、こっち向いて、起きて、など体を動かすのは何のため？』

体位を変えて頂くことで、仰向けでは見えなかった部分も見えてくることがあるからです。また、超音波の最大の特徴はリアルタイムに観察できることです。例えば、胆石を見つけたとします。体位を変えて頂くことで、胆嚢内を胆石が移動します。うまくするとコロコロ転がる様子も見えたりするのです！移動が確認できると、胆石という診断の助けにもなりますし、胆石で隠されていた胆嚢壁の様子も見ることが出来ます。

Q 『お腹をグリグリするのは何のため？』

これは消化管内のガスを避けるためと、臓器をくまなく端から端まで検査するための扇状走査という方法です。腹部超音波の場合、先ほどお話したように肋骨をよけながら検査しなくてはなりません。そこで、お腹をのぞき込むようにして扇を仰ぐようなイメージでプローブを動かし、隅々まで見ようとしているというわけです。

このような理由で色々な協力をお願いしています。それぞれの方に合わせた無理のない条件を探しながら、見落としのない検査を心がけていますので、検査をされる際は無理のない範囲でご協力をよろしくお願いいたします。

